

この状況を打破するため、市と市老連は「小郡市老人クラブ連合会の明日を考える会（明日の会）」を立ち上げ、昨年3月～12月にかけて協議を重ねました。協議の中で、加入クラブ減少の原因として、市老連の役職の負担が挙げられました。各クラブで活動する一方で、市老連の役職を兼ねることは、会員にとって大きな負担であり、役職の担い手がいないという現状もありました。また、市老連への加入のメリットがない、行事が多くて参加への負担があるなどの意見も挙げられました。その一方で、超高齢社会の中で、市老連が果たす役割とその必要性も指摘されました。

「明日の会」の協議内容を踏まえ、現在、市老連は組織体制や活動の見直し、市老連加入者への特典などを検討しています。今後、さらに高齢者が増加する中で、高齢者の生きがいづくりやお互いを支え合うまちづくりは重要な課題です。超高齢社会で暮らすひとりとして、皆さんも今一度考えてみませんか。

市老連加入特典を検討中



超高齢社会を支える —小郡市老人クラブ連合会の現状と展望—

市老連主催行事と加入者の声

すてきな老人クラブに感謝

八坂熊喜さん(横隈区)



数年前の春に、老人クラブ隼鷹会に入会。高齢になってからの入会ですが、温かく迎え入れてもらいました。老人クラブに加入するとさまざまな行事に参加できます。老人クラブ主催の「歩こう会」や旅行、市老連主催の高齢者運動会、老人クラブと協働のまちづくり協議会共催で開いた「簡単、手抜き料理教室」など、とても元気が出てくる行事ばかりで毎日楽しく過ごしています。

横隈に住んで10年以上が経ちますが、老人クラブの会員さんを中心に地域の皆さんの親切に感謝し、生きがいのある老人クラブの活動に参加しながら、まだまだ元気に頑張っていきます。



グラウンドゴルフ



演芸会



圍碁将棋大会

楽しい老人クラブの継続

樋口幸子さん(稲吉区)



稲吉区では、老人クラブの会員が亡くなると、全会員へ連絡があります。葬儀に参加し、老人クラブで一緒に過ごした仲間をみんなで見送り、弔辞も読みます。これは、故人となった会員に、寂しい思いをさせないという心遣いからであり、とても素晴らしいことだと思います。

近年は、居場所づくりとしてのサロン活動や講習会、旅行と楽しい行事が多くあり、生きがいを持って参加しています。また、市老連主催の高齢者運動会にも参加しました。入場行進から始まり、いろいろな競技を行い、最後は総踊りで運動会が終了しました。このように楽しい高齢者運動会が、継続されていることに、市老連のありがたさと力強さを改めて感じました。



運動会



ダーツ講習会



交通安全教室

市老連の危機

現在、市では、高齢者人口が増える一方で、小郡市老人クラブ連合会(市老連)に加入する老人クラブ数の減少が大きな課題となっています。

市老連加入クラブ数・会員数が最も多かった平成19年は、クラブ数57、会員数3,629人でした。以降は減少し続け、平成29年には、クラブ数31、会員数2,029人にまで減少しています。

老人クラブと市老連

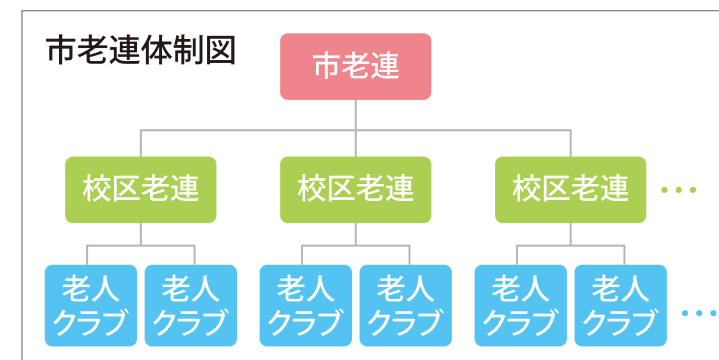
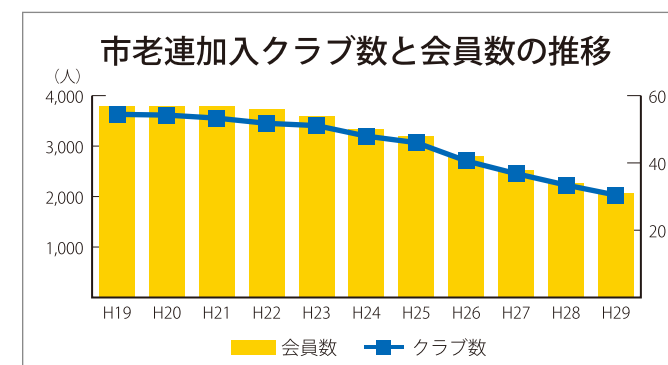
老人クラブとは、おおむね60歳以上の高齢者が、豊かな知識と経験を生かして身近な地域社会で自主的に参加・運営する組織で、昭和25年ごろから全国各地で作られ始めました。

市老連は、これら老人クラブが集まった組織で、小郡市では行政区(自治会)単位で作られた老人クラブの集合組織となっています。

社会的役割を担う市老連

市老連は、各老人クラブが行っている自主的活動を支援し、クラブ間相互やクラブと関係機関との連絡調整を行っています。その他、活動をより豊かにするため、各クラブの活動調査や研修会開催など、老人クラブの育成を行う役割も担っています。

また、市老連では、高齢者の見守り活動や閉じこもり・孤立を防ぐ友愛訪問、サロン



活動などを行っています。これは、高齢者がお互いを支え合うまちづくりの一つであり、市が構築を進めている「地域包括ケアシステム」の大きな柱の一つでもあります。

このまま市老連へ加入する老人クラブが減少し続けると、各老人クラブ活動への影響だけでなく、地域間のつながりや、超高齢社会へ対応する社会システムの構築に大きな影響を与えます。